

■ 適用回線に関する注意事項

1. 構内交換機の内側には接続できません。
2. 構内交換機、ファクシミリおよび留守番電話を接続する場合は、火災通報装置の機能に支障を生じるおそれがない接続をしてください。（3ページのシステム構成を参照してください。）
3. 消防機関（119番）への発信、消防機関（119番）からの逆信ができない回線には使用できません。
4. 火災通報装置を接続する回線（IP電話回線アダプタなどのアナログポートを含む）が通報先応答にて極性反転（リバース）しない場合は、一般通報機能を使用できません。（例：公衆電話回線など）
5. 火災通報装置を接続する回線が、通報先応答にて極性反転（リバース）しない通報先は、一般通報機能の通報先に登録できません。
（例：フリーダイヤル®などの着信課金サービスへの通報）
※フリーダイヤル®は、NTTコミュニケーションズの登録商標です。
6. ISDN回線に接続する場合は、必ずターミナルアダプタTA/T（サクサ（株）製）をご使用ください。
7. ADSL回線に接続する場合、スプリッター分離タイプ（NTTフレッツADSLなど）に接続してください。
スプリッター一体タイプには接続できません。
8. IP電話回線をご使用になる場合は、関係する省令、告示に従い、設置・運用してください。
（下記の「IP電話回線のご利用にあたっての注意事項」を参照してください。）

■ IP電話回線のご利用にあたっての注意事項

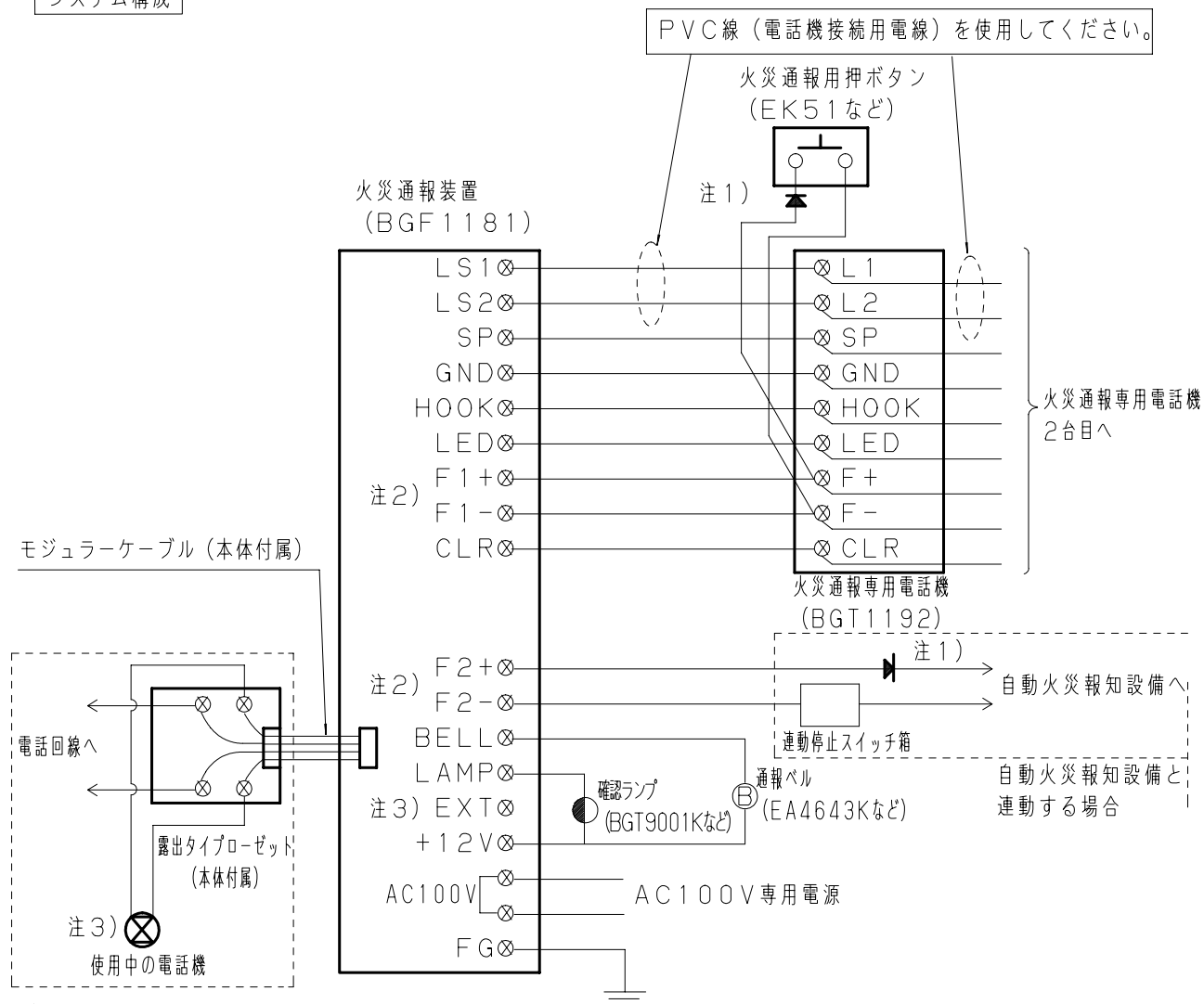
この商品は、インターネットプロトコルを使用した電話回線（IP電話回線）に接続することが認められている火災通報装置です。

火災通報装置をIP電話回線に接続してご使用になる場合は、以下のご確認、ご対応をお願いします。

1. 消防機関（119番）への発信、消防機関（119番）からの逆信ができないIP電話回線には使用できません。
（例：050・・・のIP電話など）
2. 一般電話機やファクシミリなど、同一のIP電話回線に接続する他の機器などが行う通信の影響により、火災通報装置の機能に支障を生じるおそれのない回線契約および接続をしてください。
3. ご使用になるIP電話回線を構成する機器（回線終端装置など）が存在する場合、それらの機器に対しても、火災通報装置と同様の電源の接続方法および同様の動作時間を可能とする予備電源が必要となります。
また、構成する機器が存在しない場合でも、その回線が停電時に使用可能である必要があります。
4. ご使用になるIP電話回線の契約内容、回線終端装置などの設定によっては、消防機関との通話ができない可能性がありますので、詳細につきましては、電話回線の通信事業者へご相談ください。
5. 上記以外にも設置に関する条件がありますので、関係する省令、告示などを確認願います。

商品仕様書図	品名	火災通報装置 (応答確認ランプ付) (音声ロムパック別)			品番	BGF1181 (2/4)
単位：mm 第三角法	作成	2016年 10月 20日	改	2	パナソニック株式会社	

システム構成



注) 露出タイプローゼットに
接続する配線は、電話回線
からの外線ラインになり
ますので火災通報装置の
その他の配線とは別ケー
ブルにしてください。

火災通報装置から火災通報専用電話機の配線長（片道）		
使用電線径	電話機１台接続	電話機２台接続
0.5mm ² またはφ0.65	150m	100m
0.75mm ² またはφ0.9	200m	150m

- 注1) 短絡監視を行うため、火災通報用押ボタンおよび自動火災報知設備を接続する場合はダイオード（本体に同梱）の取付が必要です。
（ダイオードが接続されていない場合、119番通報が行えません。）
（短絡監視機能の初期設定は、「あり（短絡監視を行う）」です。短絡監視機能の設定を「なし（短絡監視を行わない）」に変更する場合は、ダイオードの取付は不要です。）
- 注2) 断線監視を行う場合、4ページの「F1ルート配線／F2ルート配線の断線監視を行うときの配線図」にしたがって接続してください。（断線監視機能の初期設定は、「なし（断線監視を行わない）」です。）
- 注3) EXT端子は、火災通報用押ボタン線あるいは自動火災報知設備との連動入力線の短絡出力（DC12V，0.5A）として使用します。
（断線監視機能の設定を「あり（断線監視を行う）」に変更する場合は、短絡出力及び断線出力として使用します。）
- 注4) 使用中の電話機を火災通報専用電話機として使用する場合は、ジャンパー（JP2，JP3，JP5）を必ずON側にして下さい。この場合、BGT1192は不要です。（BGT1192と併用も可能です。）
- 注5) 構内交換機、ファクシミリ及び留守番電話を接続する場合は、ジャンパー（JP2，JP3，JP5）を必ずOFF側にして下さい。この場合、BGT1192が必要となります。

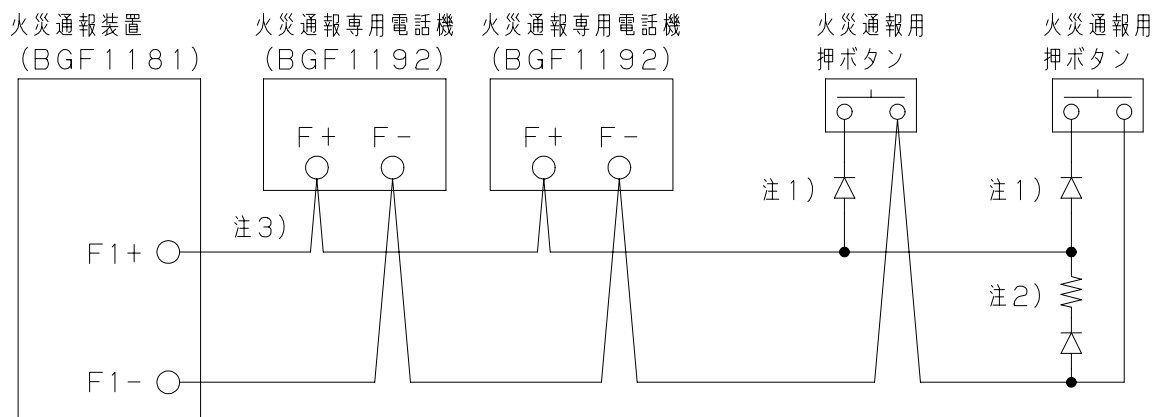
商品仕様書図	品名	火災通報装置 (応答確認ランプ付) (音声ロムパック別)			品番	BGF1181 (3/4)
単位：mm 第三角法	作成	2016年 10月 20日	改	2	パナソニック株式会社	

F 1 ルート配線／F 2 ルート配線の断線監視を行うときの配線図

断線監視を行う場合は、「F 1 ルート断線監視機能」「F 2 ルート断線監視機能」の設定を「あり（断線監視を行う）」に変更してください。

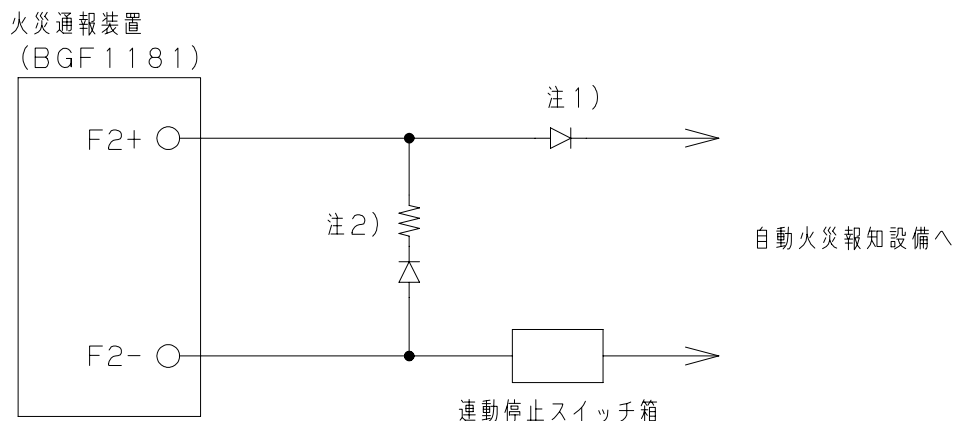
①F 1 ルート配線（F 1 +、F 1 -）の断線監視を行うときの接続方法

- 注 1）短絡監視を行うため、火災通報用押ボタンを増設する場合は、付属のダイオード（600V・1A）の極性に注意して接続してください。ダイオードは圧着スリーブなどで接続し、絶縁処理をしてください。
（ダイオードが接続されていない場合、消防機関（119番）への通報が行えません。）
※短絡監視を行わない場合（「F 1 ルート短絡監視機能」の設定を「なし（短絡監視を行わない）」に変更する場合は、ダイオードの接続は不要です。
- 注 2）断線監視を行うため、付属の終端抵抗（33kΩ・1/4W）、ダイオード（600V・1A）を直列につないで、火災通報装置から最も遠い個所に接続してください。ダイオードは極性に注意して接続してください。
また、圧着スリーブなどで接続し、絶縁処理をしてください。
- 注 3）断線監視を行うため、火災通報装置と火災通報専用電話機、火災通報用押ボタンと接続するF 1 ルート配線（F 1 +、F 1 -）は以下のように送り配線にしてください。（専用電話機増設装置を使用する場合、専用電話機増設装置と火災通報専用電話機、火災通報用押ボタンを接続するF 1 ルート配線（F 1 +、F 1 -）も分岐端子台で分岐せずに、送り配線にして接続してください。）



②F 2 ルート配線（F 2 +、F 2 -）の断線監視を行うときの接続方法

- 注 1）短絡監視を行うため、自動火災報知設備と接続する場合、付属のダイオード（600V・1A）の極性に注意して接続してください。ダイオードは圧着スリーブなどで接続し、絶縁処理をしてください。
（ダイオードが接続されていない場合、119番通報が行えません。）
※短絡監視を行わない場合（「F 2 ルート短絡監視機能」の設定を「なし（短絡監視を行わない）」に変更する場合は、ダイオードの接続は不要です。
- 注 2）断線監視を行うため、付属の終端抵抗（33kΩ・1/4W）、ダイオード（600V・1A）を直列につないで、火災通報装置から最も遠い個所に接続してください。ダイオードは極性に注意して接続してください。
また、圧着スリーブなどで接続し、絶縁処理をしてください。
なお、連動スイッチ箱と自動火災報知設備間の配線の断線監視はできません。



商品仕様書図	品名	火災通報装置 (応答確認ランプ付) (音声ロムパック別)			品番	BGF1181 (4/4)
単位：mm 第三角法	作成	2016年 10月 20日	改	2	パナソニック株式会社	